

令和 7 年度事業報告

介護老人保健施設あじさい

入所部門（短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護含む） 定員 80 名

令和 7 年度 数値目標

- ・稼働率 90%以上
- ・在宅復帰・在宅療養支援等指標「60 点」以上

実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

稼働率 87.1% 平均利用者数 69.7 名 平均在宅復帰率 36.1% 指標平均点 56.8 点
（内訳 入所 68.8 名 平均介護度 2.8 短期入所 1.6 名 平均介護度 2.8 ）

参考実績 R6 年度

稼働率 85.9% 平均利用者数 68.7 名 平均在宅復帰率 28.2% 指標平均点 52.0 点
（内訳 入所 67.9 名 平均介護度 2.8 短期入所 1.4 名 平均介護度 3.0 ）

通所リハビリテーション部門（介護予防通所リハビリテーション含む） 定員 60 名

令和 7 年度 数値目標

稼働率 75.0% 平均利用者数 45 名/日

実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

稼働率 66.3% 利用者数 39.8 名 平均介護度 2.2

参考実績 R6 年度

稼働率 68.0% 利用者数 40.8 名 平均介護度 2.2

令和 7 年度 ねむのき事業報告

【部 門】介護老人福祉施設 定員 50 名、(介護予防) 短期入所生活介護 定員 10 名

令和 7 年度数値目標

- ・ 1 日の平均利用者数 48 名 稼働率 96%
- ・ ショートステイ 1 日の平均利用者数 8.5 名 稼働率 85%

令和 7 年度実績

- ・ 1 日の平均利用者数 44.4 名 稼働率 88.3%
- ・ ショートステイ 1 日の平均利用者数 8.96 名 稼働率 89.7%

【部 門】地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員 20 名

令和 7 年度数値目標

- ・ 1 日の平均利用者数 19 名 稼働率 95%

令和 7 年度実績

- ・ 1 日の平均利用者数 18.8 名 稼働率 94%

【部 門】通所介護 定員 35 名

令和 7 年度数値目標

- ・ 稼働率 77%

令和 7 年度実績

- ・ 1 日の平均利用者数 24 名 稼働率 70%

【部 門】訪問介護

令和 7 年度数値目標

- ・ サービス提供時間月平均 300 時間

令和 7 年度実績

- ・ サービス提供時間月平均 296 時間

【部 門】居宅介護支援

令和 7 年度数値目標

- ・ 介護給付 月平均 175 件
- ・ 予防給付 月平均 20 件以内

令和 7 年度実績

- ・ 介護給付 月平均 165.3 件
- ・ 予防給付 月平均 30.7 件

【部 門】（介護予防）認知症対応型通所介護 定員 12 名

令和 7 年度数値目標

・稼働率 75%

令和 7 年度実績

・1 日の平均利用者数 6.4 名 稼働率 53.3%

こでまり令和7年度事業報告

特定施設入居者生活介護 定員48名

令和7年度数値目標

稼働率 98%

令和7年度実績

稼働率 95%

平均介護度

2.01

月の平均利用者数 46.8名

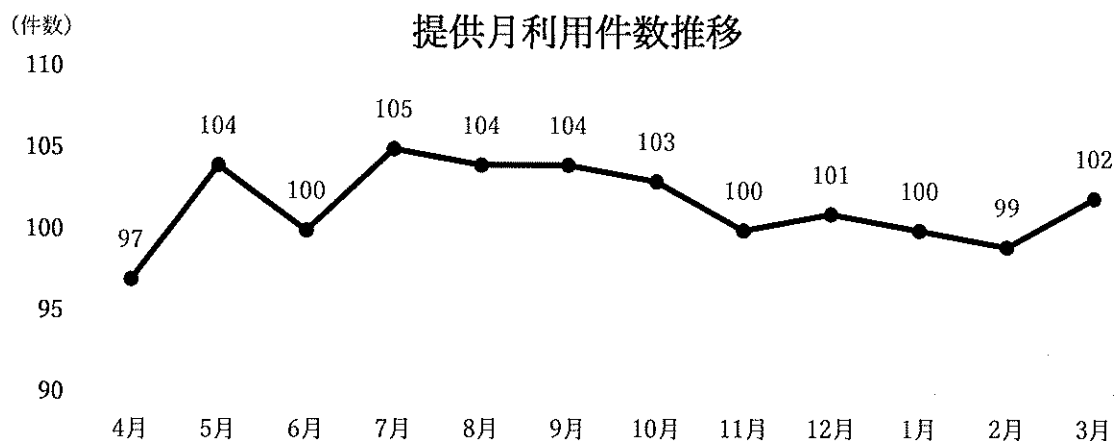
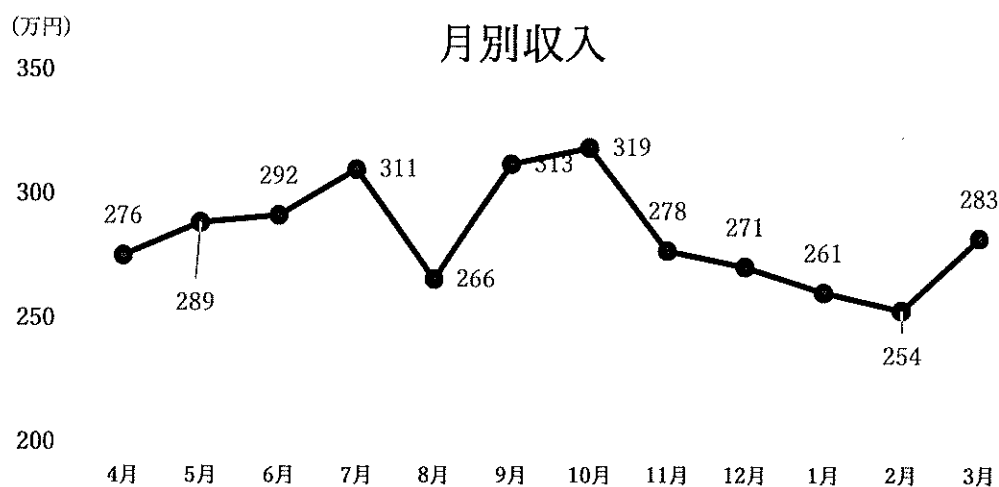
令和 7 年度事業報告

事業所名：LaKiKi

事業区分：通所介護（リハビリ型半日デイサービス）

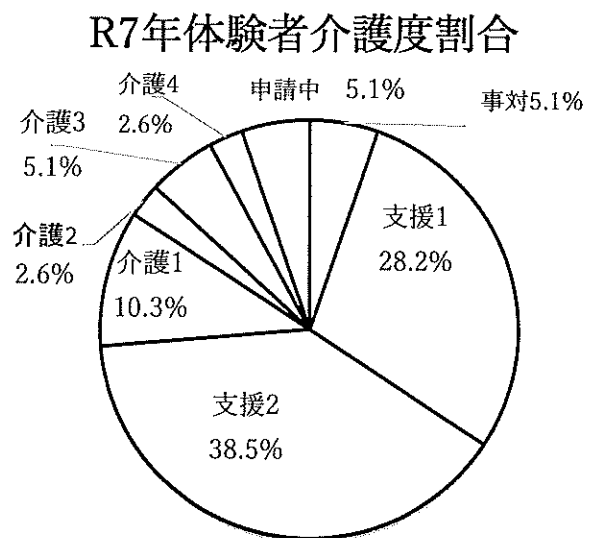
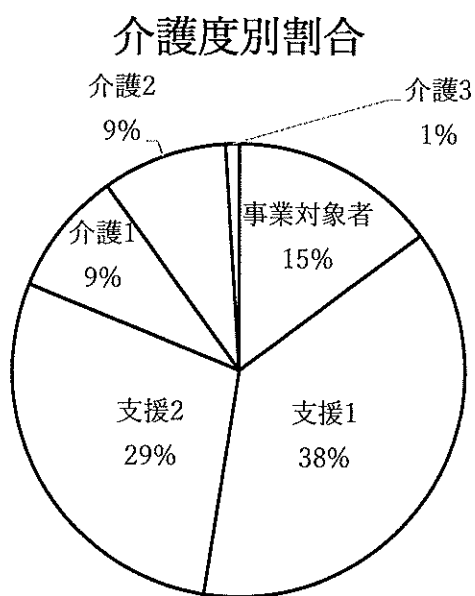
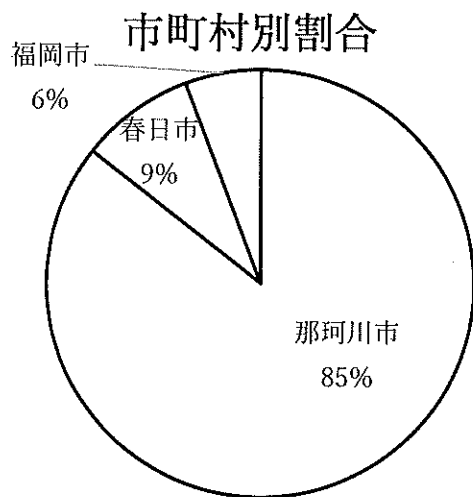
利用者数： 6365 名 平均介護度 0.49

稼働率： 62.9%



グラフの通り、7月までは利用者の件数は維持できていたが、10月以降は家族感染等でインフルエンザにかかった利用者や入院が増え、利用件数に減少が見られている。また、8月、1月、2月の利用料は目標値270万円を超えることが出来なかったが、今年の月当たりの平均が約280万円/月の売り上げとなり、目標の270万円/月を達成し、+10万円/月を獲得することが出来た。介護の利用者数を増やしたことで利用欠席者に対してアプローチをさらに強化したことが要因としてあげられる。

R8年度の体験者は、平均3名となり、最高の月獲得件数は5名であった。



令和7年度 ライフレスキュー事業 事業報告

- ・活動実績なし

令和7年度「ゆめ広場」の事業報告

NPO法人 絆・なかがわ
代表理事 森 千春

事業名	子どもの居場所「ゆめ広場」
事業内容	・ 定期的な広場開放(第2・3月曜日、第1・4金曜日)では大人の見守りの中で子どもが安心でき、楽しめる環境を作った。また、第4土曜日に昼食の提供を行なった。 ・ 随時子どもや保護者の相談を受けた。広場を使用することで気兼ねなく相談しやすい様子だった。 ・ 毎月第1土曜日に資源物回収を行ない、その収益は「ゆめ広場」でのおやつ代等に充てることができた。 ・ 子どもたち及び家庭の課題を行政(学校教育課、福祉課等)、学校等関係機関に繋げた。 ・ 障がい者支援として、月2回の作業ルーム(土曜日又は日曜日)を行なっている。障がいを持つ子の保護者から相談を受けることも度々あり、保護者にとっても必要な居場所である、 ・ 市の事業である「生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援事業」を受け、これまでの事業(月曜、金曜、土曜)に加え、火曜日と土曜日に学習支援を行ない学習の定着を図っている。特に中学生は家よりも集中できると言って頑張っている。生活支援として月2回作業体験日を設け岩塩の袋詰めを行っている。
事業の必要性や成果	子どもも大人もコミュニケーションが苦手な人が増加する昨今、「子どもの居場所」の必要性を実感する。特に不登校の子は広場での大人とのかかわりの時間を設けることで、心の充電につながっている。今年度も中学3年生は無事高校に合格、入学につながった。

	小学生～高校生	保護者相談 親子相談	しょうがい児・者 等
月・金曜日(ゆめ広場・生活支援)	45人	3人	40人
火曜日・土曜日(学習支援)	272人		
土曜日(生活・相談支援)	30人	3人	36人
他曜日			40人